

# 多職種連携の重要性

YK大学：社会福祉学部・社会福祉学科・3年

期間：令和2年9月14日～18日（5日間）

今回、医療福祉系での5日間のインターンシップに参加させていただきました。そこで、老人保健施設での社会福祉士の業務に同行させていただき、多職種連携の重要性や老人保健施設の役割などを学ぶことができました。入所や退所時のカンファレンスに参加したり資料の作成の仕方を教えていただいたりと貴重な体験をさせていただき、この5日間を通して、将来について考えるきっかけになりました。

まず、老人保健施設とは病院から退院された後、自宅で生活するためのリハビリや日常生活動作を安定させるための施設で、社会福祉士やケアマネジャー、理学療法士や栄養士など幅広い職種の方がおられました。5日間の中でカンファレンスに参加させていただいたのだが、体の機能の様子は理学療法士から、食事の形態は栄養士から、体調の様子は看護師から情報共有がされており、様々な職種がそれぞれ違った立場からその方についての状態を伝えていました。幅広い専門職が同じ職場にいるので色々な分野に関わることができ、働きながら自分のスキルアップを図ることもできると感じました。特に社会福祉士は本人やご家族からの一番の相談窓口になるので、幅広い知識を身に着けなければならないと考えました。実際にカンファレンス後にご家族が社会福祉士に相談を持ちかけている様子が見受けられ、利用者のケアはもちろん、介護をする側の悩みや質問にも答えられるような知識や技術も欠かせないことが分かりました。

また、カンファレンスだけでなく、常に利用者の状態を様々な専門職が話し合っている場面が多くあると感じました。色々な立場からその方を見ることで体の調子が悪い原因が分かったり、解決策を導くことができたりと常日頃から情報交換をし、利用者をも角的視点から見ること重要なのではないかと感じました。そして、連絡事項や決まったことは漏れないよう伝達したり、何日までに何をしなければならぬと自分のスケジュール管理もその都度行ったりすることで効率よく物事を進めることができると考えました。

今回の5日間のインターンシップでは、社会福祉士の一日の様子や介護職員の仕事、理学療法士が行うリハビリの様子など幅広い分野の仕事を見学させていただき、多くの体験をさせていただきました。社会福祉士の幅広い知識や技術が様々な場面で活躍し、利用者の方やご家族の信頼へともつながるようにも感じました。また、5日間の中で自分の課題を見つけるとともに働くことについて考える機会にもなりました。老人保健施設をはじめ、どの職場でも人とのつながりは必ずあると思うので、利用者の方だけではなく、ご家族や職員同士でもコミュニケーションをとることは働く上で大切なことなのではないかと感じました。また、積極的に仕事に取り組むことで学ぶことも増え、何より経験を積むことは自分の将来に向けての土台になると考えました。この期間に学んだことを心に留め、今後も自分の将来を見据え、探求心を持って何事にも取り組んでいきたいです。

# 医療に関わる上で何を身に付けておくべきか

HK大学：医療経営学部・医療経営学科・2年

期間：令和元年8月19日～23日（5日間）

私は、講義で学んだ医療制度や保険の仕組み、診療情報の管理がどの様に実務事務作業に活かされ、行われているのかを学ぶことを目的として実習に参加しました。また、医療に関わる上で何を身に付けておくべきか早くから知りたいと考えていました。

実習先では1日目は、実習先の病院がどのような病院なのか伺った後、保険制度の基本について説明がありました。2日目は、病棟事務員の方と一緒にカルテを綴じる業務、患者さんの入院手続きや看護師の方の補助業務を行いました。3、4日目は、パソコン業務が中心で、薬剤料とリハビリの単位数の入力や入院料と食事料の点数確認を行いました。病棟業務は、医事課とは役割が全く異なり、看護師の方がスムーズに仕事することができるように業務を行っていることを学びました。5日目は、翌月の算定用紙作成や会議準備、病名と処方薬の照らし合わせを行いました。また、5日間の実習を通して、電話対応も学ぶことができました。基本的なマナーとして、電話に出たら先に自分から名乗ること、メモを取れる準備を常にすることを学びました。その他にも、電話を掛けてこられた方が何度も同じ説明をする必要がないように、用件が分かればすぐに担当者の方に電話を繋ぐことなど、患者さんから相談の連絡もある医療機関だからこその工夫もありました。

実習先の病院は、全国でも珍しいオープンシステムの病院であり、かかりつけ医が医師会病院の医師と協働で施設を利用できるという特徴がある総合病院であるため、急性期や回復期、障害者病棟などで担当の方が分かれています。また、病院で導入されているシステムは、パソコン入力業務の際に、入院料や食事料など自動算定の部分と、リハビリなど手入力をする部分があり、細かい部分の算定条件の確認が多くあるため貴重な経験となりました。

大学の講義では、医療制度の基本について学びましたが、今回の実習中には、様々な保険を適用している方や公費を適用している方もおられ、多くの方式を見ることができました。また、実務事務作業では算定が合っているのか、早見表を駆使して細かい条件まで確認する業務があることも学びました。その他にも、数か月前の入院記録などは近くの棚で保管されており、転院先や監査室などから問い合わせがあった際には、保険証の情報や治療内容がすぐ回答できるように管理されていることを知りました。

今回の実習では、講義で学んだ申請用紙の様式が実際にどの様に記入されているのかを見ることができ、教材では出題されていない算定の方法や、患者さんと接してみなければ分からないケースが多くあり大変勉強になりました。また、マナーの面では、医療従事者にふさわしい言動や服装など実習を経験してみなければ感じられなかった気遣いも学ぶことができました。今後の大学生活では、講義で法律や様式について学んでいくことも大切ですが、その法律がどの様な行為に関わるものなのか、様式にはどの様な記入事項があるのか実務を含めて興味を持ち考えていくことが重要であると感じました。

# 食事で生活を豊かにするために

K大学：看護栄養学部・栄養学科・3年

期間：平成30年9月3日～7日（5日間）

私は今回、N病院でインターンシップを実施させていただきました。5日間という短い期間でしたが、管理栄養士という仕事の大変さや魅力を知ることができました。5日間を通して、食材の下処理から、調理、盛り付け、トレイメイクなど、患者様へ実際に提供する食事の一連の調理作業を体験させていただきました。加えて、栄養士業務や仁保病院で行われているニュークックチルシステムの説明、食事風景の見学などもさせていただきました。ニュークックチルシステムを導入されている病院は全国的にも少なく、また学校の給食実習でも行うことがないため、貴重な体験を多くさせていただきました。

N病院は認知症の方が入院されている病院で、入院後は看取りまで入院されている方も多いそうです。その中で、徐々に状態が悪くなられるのですが、可能な限り最期まで口からお食事をしていただくことを目指していらっしゃいました。実際にお話を伺った中でも、飲食店を経営されていた患者様へ、お店で出していた食べ物を毎日提供されていました。栄養面では偏りが生じてしまいますが、患者様のこれまでの歴史を尊重し、食べられるものを食べていただくことで、患者様のQOLの向上を目指されていました。管理栄養士として、患者様のお食事の能力だけでなく、今までの生活史までも把握してお食事を提供する必要があることに改めて気づくことができました。

また、仁保病院では、2～3日分の食事をまとめて下処理、調理を行い、それをチルドの状態で作成保存されていました。その後、提供する前日にお皿に盛り付けし、特殊な再加熱カートで冷蔵保存し、提供直前に再加熱をすることで衛生的に美味しい食事を提供されていました。加えて、患者様の咀嚼・嚥下能力や食事量などの状態を反映し、刻み食やソフト食、ムース食等様々な形態の食事を提供されていました。実際に患者様に何を提供するかが記載された食札を確認しながら、患者様へ提供する食事を組み合わせてお盆にのせていく作業をさせていただきましたが、同じ組み合わせの患者様がいらっしゃらないぐらい食事の種類が多様で、正確に素早くお皿を乗せていくのは非常に大変でした。しかし、このシステムを施行することで、調理者の負担の軽減や衛生面の向上ができるため、非常に有効な方法であると感じました。また、一緒に作業をさせていただいた調理師の方も、ニュークックチルシステムを実施することで、1日3回食事の調理を行う必要がある病院とは異なり、朝早くから出勤する必要がないため、非常に働きやすい環境であると言われていました。管理栄養士は、栄養部のまとめ役として職場づくりも重要な業務の一つですが、私もいかに調理師の方が働きやすいかまで考えた環境作りをしていきたいと思いました。

今回のインターンシップで、管理栄養士だけでできる業務はないという事を実感し、他の職種の方から信頼され、患者様の生活がより良いものとなるよう支援できる管理栄養士になりたいと思うようになりました。5日間の実習で、私自身多くの課題を見つけたため、これからの課題としていきたいと思います。実習期間中は、初めての事ばかりで不慣れなため、多くの方々に大変ご迷惑をおかけした事と思います。職員の方たちには、色々なことをたくさん教えていただき、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

# 仕事の大変さと魅力

Y J 大学：文学部・日本文学科・3年

期間：平成29年9月13日～15日（3日間）

私は、今回のインターンシップで、病院にて研修をさせていただきました。3日間という短い期間でしたが、医療事務という仕事の大変さや魅力を知ることができました。

私が体験させていただいた主な業務内容は、カルテを検索し、カルテを探して外来に持っていくこと、カルテの整理や今年の8月以前に最終来院された方のカルテを別の保管場所に移動させる作業、電子カルテに診療情報を入力すること、会計処理、業務内容の見学（カルテの探し方、患者さんとの接し方、電話対応など）、入院案内の資料をまとめることなどです。普段の生活ではできないような体験を多くさせていただきました。カルテを整理することで、カルテを見つけるまでの時間を短縮することができ、患者さんが来院され、早く受付をするための工夫がされているのだということを知ることができました。また、電子カルテに診療情報を入力し、診療点数を漏れなく計算して会計処理を行う業務では、パソコンがデータを読み取ってくれることもありますが、最終的に人の手で確認され、正確さを問われる仕事も大切になってくるということも分かりました。電子カルテに入力する業務や、カルテを検索して外来に持っていくまでの手順を覚えることは大変だと、業務を経験してみて感じました。また、職員の方のお話を伺う中で、難病の種類が増えたり、手続きをする内容が増えたりしていくことを学びました。医療事務という仕事は、就職してからも勉強をしていくことができなければ勤まらない仕事であると感じました。また、私が想像していた以上に仕事の幅が広く、他の部署との関わりも多くあるということを知りました。

私は医療事務の勉強を初めて間もなかったのですが、私にも分かりやすいように、職員の方がひとつひとつ丁寧に優しくご指導してくださいました。さらに、私が業務を体験させていただいている間は、仕事が滞り、スムーズに業務がはかどらないにも関わらず、多くのことを体験させていただきました。私を指導しつつ同時に仕事をこなしていくのは容易なことではないはずなのに、患者さんが来院された際には、その人に合った丁寧な対応をされていて、感銘を受けました。電話対応も焦ることなく、患者さんから必要な情報を聞き出し、早急に対応されていた姿が印象に残っています。お医者さんや看護師さんとの連携もしっかりとされていて、患者さんのことを想って仕事をされているのだということが分かりました。私はそんな職員さんたちの姿を見て、私も医療事務という仕事に就いて、職員さんたちのように周りに気を配り、患者さんや様々な部署との関わりを大切にできるような働き方をしたいと思うようになりました。

私は、このインターンシップを通して、医療事務の仕事に就きたいという気持ちが一層強くなりました。レセプト作成や会計処理、様々な患者さんとの接し方や、仕事を始めてからも覚えることがどんどん増えていくことなど、大変なことがたくさんある仕事だと知りました。しかしそれ以上に、その大変なことがやり遂げられた時、大きな喜びに繋がるということも教えていただきました。ご指導して下さった職員の方々のように、物事に柔軟に対応できるような医療事務員になれるよう、これからの学生生活においても意識を高く持つようにして過ごしていきたいと思えます。

# 「患者さんにとっての家」

T大学：人間科学部・心理臨床・こども学科・2年

期間：平成28年8月24日～30日（5日間）

私は、高校3年生の冬、膝の怪我で入院したことをきっかけに、看護師になりたいと思うようになりました。今回のインターンシップでは、慢性病院の病棟や訪問看護や介護施設の現場に訪問させて頂きました。

最初の3日間は、病棟で研修を受けました。一日目が終了して思ったのが、体力のいる仕事だと思ったことです。慢性病院ということでお年寄りがほとんどであるため、看護師は、看護と介護の両方をしなくてはならず、体力的に辛い場面がありました。しかし、そんな時、患者さんの笑顔が見られたり、「ありがとう」と言われたりすると、疲れていたことなんか忘れてしまいました。これが看護師としてのやりがいの一つなのだと実感しました。今回、病棟では、たくさんの体験や急性病院ではあまり見ることの出来ない珍しい治療の見学もさせて頂きました。一日に何度も行き患者さんの様子を共有し合うカンファレンスは、一人ひとりの変化も見逃すことなく観察しているのが分かりました。また、介護福祉士さんやケアマネジャーさんなどと連携したシステムで、患者さんの情報が随時更新されているのを間近で見学させてもらい、刺激を受けました。その他にも、バイタルサインや点滴で伺った少しの間で、患者さんとコミュニケーションを取って、病状だけでなく、心情のことまで確認している姿を見て、意味のない行動はないのだと気付きました。看護師長さんからは、「看護の質を上げるには、誰が対応しても同じように看護することが大切である」と教わり、とても勉強になりました。この言葉は、私の心に今でも響いています。

今回、体験もたくさんさせて頂きました。中でも、おむつ交換は、手伝わせて頂く機会が多かったため、徐々に上達してきて嬉しかったです。大変だったのが入浴介助で、寝たきりの患者さんの更衣は、力が必要で汗だくになりました。それでも風呂から上がり、髪を乾かしてあげるとさっぱりした様子で入浴介助をした甲斐があったと思えました。訪問看護でも看護と介護に関しては、ほとんど病棟と同じようなことをしましたが、やはり、一人ひとりに長い間目を向けられるという点に魅力を感じました。コミュニケーションを取れる喜びを、改めて実感出来て良かったです。介護施設では、看護師が与える安心感があると気付きました。医療知識のある看護師が頼られる場所の一つだと思いました。

今回、インターンシップを受けるまでは、ただ漠然と看護師として病棟で働きたいとしか思っていませんでしたが、今は違います。病院は急性期と慢性期どちらが自分に向いているか、訪問看護という働き方もあるのか、など、看護師としての働き口の広さを知ったことで、職場選択の視野が広がりました。また、実際に現場の職員さんと同じ一日を過ごすことで、看護師に必要な要素や仕事の大変さ、やりがいをたくさん見つけることが出来ました。私は、インターンシップを行う前より、強く看護師になりたいと思えるようになりました。これから、将来に希望をもって前向きに頑張りたいと思います。

# 福祉施設の仕事を体験したこと

T大学：福祉情報学部・人間コミュニケーション学科・1年  
期間：平成27年9月14日～18日（5日間）

今回のインターンシップで、福祉施設に、5日間実習に行きました。私は、これまで一度もこのような実習をしたことがありませんでした。なので、実習前は、障害を持った方々や職員の方たちと上手くコミュニケーションが取れるか、またきちんと業務できるか不安でたまりませんでした。しかし、将来の進路選択として福祉の仕事に興味があったので、福祉とはどのようなことをするものか自分の目で見て勉強したく、このインターンシップを受けることにしました。

私は実習初日に施設に入り、各部署の職員方に挨拶をするときに、大きな声で挨拶をしようと思っ  
ていましたが、緊張して少し声が小さくなってしまいました。そこは今後、克服していきたいです。

期間中の内容としては、私は卒業後、社会福祉士を希望しているので、主に、高齢者や障害をお持ちの方々とお話をさせていただきました。特に認知症の方が多く、はじめて対応した為に困惑する時が何回かありました。しかし、職員さん方は、どんな質問をされても困った様子もなく機敏に対応されていたので、「すごいな」とか、「私も、どんな質問されてもすぐ対応できるようになりたい」と思いました。

他にも、シーツ交換をしたり、施設内の草取りをしたり、車椅子・プライバシー保護・老健施設サービス・認知症・高齢者の食事・高齢者虐待・接遇・リハビリ機器についての説明を聞いたり、老人会・敬老会に参加して福祉の職業の大変さや様々な業務内容があることがわかりました。

初日は、すごく緊張しましたが、2日目からは徐々に対応できました。最初は、自分からは、なかなか話しかけることが出来ず、職員の方に勧められて高齢者・障害者の方々と話しをしたのですが、最後には、自分から積極的に話しかけられるようになりました。この5日間の実習で、福祉の仕事に以前よりも興味をもちましたし、社会福祉士・介護福祉士というのが、どんな仕事をするものなのかがよく分かり、大変勉強になりました。

5日間の実習で、私自身の課題が数多く見つかったので、これからきちんと修正していきたいと思  
います。

実習期間中は、初めての事ばかりで不慣れなため多くの人に大変ご迷惑をおかけしたと思います。職員の方たちには、色々なことをたくさん教えていただき、本当に感謝しています。なので、この経験を無駄にはしないで、大学でしっかりと勉強して、卒業後には立派な社会福祉士になれるように努力していきたいと思  
います。